

2010

第2号

仙台市障害者就労支援センター通信



はたららくネット

編集・発行 仙台市障害者就労支援センター

はたららく障害者の声を聞いてみました。!



仙台市障害者就労支援センターでは、仙台市内の就労している障害者を対象として、就労者同士の情報交換や交流の場の提供などを目的とし10月6日(水)に「はたららく障害者のつどい」を開催しました。

参加者は、10名。製造小売業や食品を扱う仕事などさまざまな業種の方がおり、働いて思うことを中心に意見交換などを行いました。一人ひとりが働くということに自覚を持ち、責任を持って働いておりその中で、働くことの楽しさ・厳しさを感じていることを参加者で共有出来た有意義なつどいとなりました。次ページに参加者の声を載せてありますのでご覧ください。

目次

働く障害者の声を聞いてみました	1 ページ	
就労支援センターの事業報告	2 ページ	「働く皆さんに聞きました」
クローズアップおっきな輪	3 ページ	「株式会社チャレンジドジャパン 就労移行支援施設 ひゅーまにあ仙台」
企業に聞きました	4～5 ページ	「森徳とうふ店」
障害者の就職活動を応援するために	6 ページ	「センターこんなことやってます！」
ふれあいワークフェア 2010 が開催されました	7 ページ	ふれあいワークフェア 2010 対策講座実施報告
センターからのお知らせ	8 ページ	



働く皆さんに聞きました

第1回目の今回は、働く皆さんが感じることについて自由にお話をして頂きました。『分からなくて聞くと、「なんでまた聞くの?・なんで間違えるの?」と言われてしまうこともあります…』そんなAさんの仕事上の声に対して、皆さんから「メモをとるようにしています」、「わからなければ何度か聞いてもいいかを事前に確認したおかげで今は頑張れています」など自分の体験談を話しあう場面も見られました。

また、「以前、注意されてむっとした時もありましたが、後になってその人が自分の為を思って怒ってくれていたのだと気づき、ありがたいと思いました。この経験から、その後も注意を受けた時は自分の為を思って言ってくれているのだろうと思うことが出来るようになりました。」という意見もできました。

私たちは最後に・・・働いていて良かったと思うことは?と参加した皆さんに問いかけてみました。

😊 給料日! (全員一致)

😊 働いている先輩たちと交流が出来るのが嬉しいです。

(※この方が通所していた就労移行支援事業所には、就労中の人たちが集まる場があるとのこと。)

😊 会社に溶け込めたと思った瞬間です。また、お客様から自分の関わった商品を買って頂いた瞬間に「働いてよかった!」と思います。



【はたらく障害者のつどいの様子】

次回のはたらく障害者の集いは12月の移動相談時に開催予定です。興味のある方は仙台市障害者就労支援センターまでお問い合わせください。また、ホームページにも掲載予定ですのでご覧ください。

クロネコメール便配達本人による特別報告会を開催します!

●「私を待っていてくれる人がいます」●

皆さんの身近なところで、障がいのある人達が毎日天候に関係なくクロネコメール便を配達しながら、街に出てイキイキと働き、地域の人との交流を深めています。その配達している障がいのある人本人による報告会を開催します。配達している障がいのある人達のイキイキとした声を聞くことができますので、障がいのある人のしごとや暮らしについて皆さんと考える一日として、共に支えあう社会づくりに関心のある皆さまのご来場をお待ちしています。

(当日は報告会のほかに授産品の展示販売も予定しております: ランチ&バザール)

日時 : 平成22年12月12日 (日) 11:00~15:30

場所 : 東北福祉大学ステーションキャンパス5階S500教室 3Fピロティ (仙台市青葉区国見1-19-1)

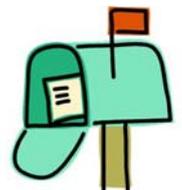
定員 : 100名

※お越しの際は、公共交通機関をご利用下さい。

お問い合わせ先: ヤマト福祉財団 03(3248)0691

電話: 03(3248)0691 / FAX: 03(3542)5165

主催 (財) ヤマト福祉財団 東北福祉大学実学臨床教育推進室 仙台市障害者就労支援センター



クローズアップおつきな輪



仙台市障害者就労支援センターでは、就労移行支援事業所等の関係機関との連携を密に図り就労を目指している障害者の方、または、現在働いている方の支援を行っていきたくて考えております。

そのため、機関誌で様々な就労移行支援事業所の特色や各就労移行支援事業所等からの就労者の動向などをシリーズで紹介していきます。

今回は、「株式会社チャレンジドジャパン 就労移行支援施設ひゅーまにあ仙台」さんを紹介いたします！



【事業所の様子】

ひゅーまにあ仙台は、平成21年7月に開所。パソコンやOA機器の操作、ビジネスマナーの習得を通じた就労サポートを行っています。現在の登録者数は23名で毎日16～17名の方が活動しています。最近では精神障害の方が多く10代から60代と幅広い年代の方が通われています。

スタッフは、サービス管理責任者1名・就労担当3名・生活担当3名の計7名です。学生のボランティアもたくさん来てくれています。

代表取締役の白石さんにお話を伺いました

東北大学大学院経済学研究科修士課程に籍を置いている現役の大学院生です。研究テーマは「障害福祉サービス事業所の持続可能な経営に関する研究」で、全国の事業所にwebアンケート調査を実施します。大学卒業後、メガバンクに勤め様々な企業を見てきましたが、その中でも福祉サービス事業所職員の待遇はよくないと感じていました。福祉業界は現行制度では経済的な成長が見込めませんが、企業努力により職員が安心して働ける環境を整えることで、サービスの質が上がるのではないかと考えています。



【代表取締役 白石圭太郎(左)さんと職業指導員 高橋さん(右)】

教えて！Q&A

Q1:新しい事業と今後の目標について教えてください！

A:11月1日に愛宕橋に野菜栽培を中心にした事務所を開業します。主な作業場所は仙台市若林区、川崎町と岩沼市等です。ぜひ遊びにきて下さい！また、今後の目標としては、なるべく本人の希望に添えるよう企業開拓に力を入れていく等、サービスの質を維持しながら事業の拡大をしたいと考えております。

Q2:仙台市障害者就労支援センターが協力できること

A:現在も求人票を送って頂いていますが、センターさんの企業開拓の中でも企業からどんな人材のニーズがあるかを情報共有して頂きたいです。



【利用者Aさん】

利用者の声：

ひゅーまにあ仙台に通って1年2カ月になりました。今までしたことが無かったパソコンに触れ、今ではWord・Excelができるようになりました。パソコンを使った事務系の仕事を目指しているのでこれからもひゅーまにあ仙台のスタッフに協力してもらいながら就職活動を頑張っていきたいです。

企業に聞きました

森徳とうふ店



【森 新一さん】

森徳プロジェクト班 班長、森 新一さんにお話を伺いました。

・企業概要

場所は、仙台市太白区中田。JR南仙台駅から車で10分ほどのところにあります。大正13年創業、店舗販売、移動販売の他に、福祉施設等に対してのとうふの技術支援事業、卸売事業を行い、豆腐及び揚げ類・豆乳・そうざい製造業を行っています。

働いている従業員は現在8名。そのうち精神障害のある方は4名です。その他にも仙台市知的障害者職場実習訓練事業を使い、訓練生1名を受け入れています。

最初に雇った方はもう働いて1年2カ月になります。最初、毎日休まず出勤してきているとのことでした。



【移動販売の車両に商品を積んでいるところ】

・障害雇用のきっかけ

森さんは、障害者の雇用に至るまでの自分の経験として「以前はセールスの仕事に就いており障害者とは無縁の世界で生活してきました。しかし、あるきっかけで授産施設を見学することとなり、そこでのボランティアとしての関わり、福祉施設への就職を機に豆腐を使って障害者の就労に貢献し、社会的事業所の実践を自らが行いたいと考えるようになりました。」と話していました。

障害者の雇用をすすめていくためには「まず自分が雇用しなければ！」と考えた森さんは平成21年8月

に初めて4名の障害のある方を雇用しました。「初めは、精神障害のある方が通う作業所から1人の採用で考えていましたが共に働く仲間がいた方が本人たちの安定や、または刺激にもなるのではないかと考え4人を一気に採用しました。」と笑いながら答えてくれました。

・森徳プロジェクト

障害者雇用を継続、またそれを実現するには事業を安定させる事が必要であると考えた森さんは、障害者が地域社会に貢献できる仕事づくりの実現と、小規模豆腐店の復興を目指す「森徳プロジェクト」を立ち上げ、移動販売事業をはじめとして、障害者福祉施設への豆腐技術支援事業を始めました。

・配慮している点

本人に関わる支援機関とのケア会議はもちろん、森さん自身が個別に月1度の振り返りを行いその都度、本人の目標達成度を確認しながら、次のレベルへと、常に1人ひとりの速度に合わせて仕事に責任を持てるよう割り振りしているとのことでした。

「障害の有無に関わらず、1年目はうまく動けないのは当たり前だと思います。森徳とうふ店では働く意味、大きく見ると生きる意味を話し合い目標設定を行ってもらいます。仕事に責任を持ってもらうことで信頼関係も生まれ、やりがいにもつながってくるのではないのでしょうか。時には、仕事でミスをして怒る時もあるけれど、みんな仕事にやりがいを持ってきていますよ。お互いに支え合って今までやってこれたと実感しています。」と笑顔で話してくれました。

長期に雇用を継続させる為に、「本人の努力はもちろんですが、一緒に働いていく中でその人の特徴を見極めて接していくことがポイント。」また、「地域の方はもちろん移動販売で豆腐を購入して下さるお客様から障害者といえども、働いているのだから、対応に気をつけるよう、クレームを頂くこともあります。施設にはない開かれた環境で事業をしているからこそ直接お客様から言葉を頂けるんですよ」と、営業に関して地域の方などから一般的な視点から評価してもらえることの重要性、そのことが本人たちに与えるプラスの影響を実感しているとお話も聞かれました。

・働いている方のお話

【佐藤孝夫さん】

大変な時もありますが、とてもやりがいのある仕事です。

店の人たちも障害者ということを理解しながら私達に仕事を任せてもらえることが嬉しく感じます。

・今後の展開

今後は、森徳とうふ店での障害者雇用の実践、全国の障害者福祉施設の支援を中心として仙台市内の中小企業等との障害者就労支援のネットワークづくりにも力を入れていく予定とのこと。

現在、全国で33か所(350名)の福祉施設等が同社の技術提供、プロデュースを受け豆腐づくりを行い工賃倍増^{※1}を目指しています。「目標は80か所(1000名)が工賃UPを達成できるようにすること」と力強く語ってくれました。また、就労継続支援A型事業所^{※2}も立ち上げ、福祉施設等に対しての豆腐の技術支援はもちろん同社での雇用も進めていく予定です。



【森 新一さんと森徳とうふ店で働く皆さん】

・最後に

これから就職を目指す障害のある方、これから障害者雇用を進めていこうと考えている企業にメッセージを頂きました。

[就職を目指す方へ。]

「私の周りでは、小さい会社でも雇用したいと考えている企業さんが増えてきています、向上心を持って就職活動に取り組んでほしいと思います。」

[支援スタッフへ。]

「会社に対する支援、雇用することにおける制度のメリット・デメリットを明確にして、本人の特性を見極めたうえで就労の提案をしていくことが重要です。」

[雇用を考えている企業へ。]

「まずはやってみて欲しい。体制は雇用してその人の働きぶりをみて整えていくことができる。仙台市障害者就労支援センターをはじめとする本人と関わっている機関をうまく使い、不安に思うことを率直に支援機関へ聞いてみるのがポイントとなっていくのではないのでしょうか。まずは森徳とうふ店を見に来て下さい！」と障害のある方を雇用し、ともに働く立場として最後に熱く語ってくれました。



※1 工賃倍増計画とは…

民間企業等の技術、ノウハウ等を活用し、経営コンサルタントや企業OBを受け入れ、経営改善や企業経営感覚の醸成を図るとともに、一般企業と協力して商品開発や市場開拓等を行うなど低い工賃をUPしていこうという活動です。

参照：厚生労働省ホームページより

※2 就労継続支援A型事業所とは…

事業所内において、雇用契約に基づく就労の機会の提供を行い、一般就労に必要な知識・能力が高まった場合、一般就労への移行に向けた支援を目的として、必要な指導等を実施する事業所です。

参照：障害者白書より

障害者の就職活動を応援するために

センター、こんなことやっています！

～4月～10月末までの事業実施報告～

就職活動サポート講座

4月～10月末までの実施状況	就労移行支援事業所	: 5か所
	医療機関	: 2か所
	企業見学	: 2社



福祉サービス事業所内で行った講座

内容

社会人としてのマナー及び就労に向けての準備について、就労支援機関の利用の仕方について等、実践を交えながら講座を行いました。

参加者の感想は、「自分が働くにあたって一般就労がいいのか、福祉的就労がいいのか考えるきっかけとなった。」
「もっと、仕事についてのマナーや常識を知りたい。」
等があり、みなさん、真剣な表情でサポート講座に参加していたのが印象的でした。また、質問等も積極的に出され有意義なサポート講座となりました。

企業見学会

内容

小売業や製造業に見学に行き、会社説明・職場見学・作業体験を行わせて頂きました。また、質疑応答では、企業側と直接話す時間を設けました。

参加者からは、「人間性・挨拶の重要性を知ることができた。」・
「販売は物を売るだけではなく、スタッフの対応も重要な仕事であると感じた。」などの感想が出されました。実際に見ることで就労に対して具体的に考えるきっかけになったのではないのでしょうか。また、与えられた仕事に責任を持つことはもちろん、お客様対応を行うことも大事な仕事であることを知るいい機会になったと思います。

* 今後も当センターでは、就職サポート講座を実施していきます。関心のある方はお気軽にご相談下さい！ *

行事報告

9月11日に目の不自由な方の就労について考えるつどいを行いました。

長年にわたって中途視覚障害者の復職を支援してきたNPO法人タートルの講演と交流会にスカイプ（インターネット）を使って参加しました。

講演は、(株)井門コーポレーションの課長、長野 一郎氏より、「我々だって、こんなにできる。我々ならではのアイデア」と題して、視覚以外で自分の持てる能力を把握し発揮していくことの重要性等のお話を伺いました。

その後、仙台の就労体験や大阪での取り組み等を2名の方に紹介していただき、視覚障害者の就労についての情報交換を行いました。今年のテーマは「視覚障害者が働くことについてのヒントを出し合おう」というもので、「今、求職中で悩んでいる」「このようにしたら仕事がうまくいった」等様々なヒントや意見が出され、視覚障害者の働くことについて有意義な時間となりました。

皆さんも視覚障害の方の就労について考えてみましょう。



ふれあいワークフェア2010が開催されました！



9月29日(水)に仙台サンプラザにて「ふれあいワークフェア2010」(障害者合同面接会)がハローワーク主催で実施されました。500名以上の方が参加され、障害者の方も企業の方も就労や雇用に向けて真剣に取り組んでいました。次回のふれあいワークフェアは2月に行われる予定ですので、関心のある方は見学してみてもはいかがでしょうか？

また、当センター主催で行った「ふれあいワークフェア2010対策講座」にも多くの方に参加して頂きました。

9月7日に支援者向けふれあいワークフェア対策講座を開催しました。

内容 : ふれあいワークフェア2010の概要について

講師 ハローワーク仙台専門援助第二部門 統括職業指導官 佐々木逸郎氏

シンポジウム「企業はこんな人材を採用したい」

シンポジストとして

●株式会社日立東日本ソリューションズ

総務本部 総務部 人事課 課長 佐藤 憲一氏

●株式会社フジスタッフ

仙台支店 コーディネーター リーダー 中内 明美氏

●ハローワーク仙台専門援助第二部門

統括職業指導官

佐々木逸郎氏にご協力頂きました。



参加者は30名。参加して頂いた方の感想としては、「支援者としてどのように面接会に参加したらよいかわかった。」「実際に雇用している企業側の意見を聞いて参考になった。」「採用のポイントを聞いてよかった。」等が聞かれました。

9月22日に参加者向けふれあいワークフェア対策講座を開催しました。

内容 : ふれあいワークフェア2010の概要について

講師 ハローワーク仙台専門援助第二部門 統括職業指導官 佐々木逸郎氏

ふれあいワークフェア2010の準備講座(履歴書の書き方・服装など)

模擬面接会

面接官として、株式会社 フジスタッフ 仙台支店の方にご協力頂きました。

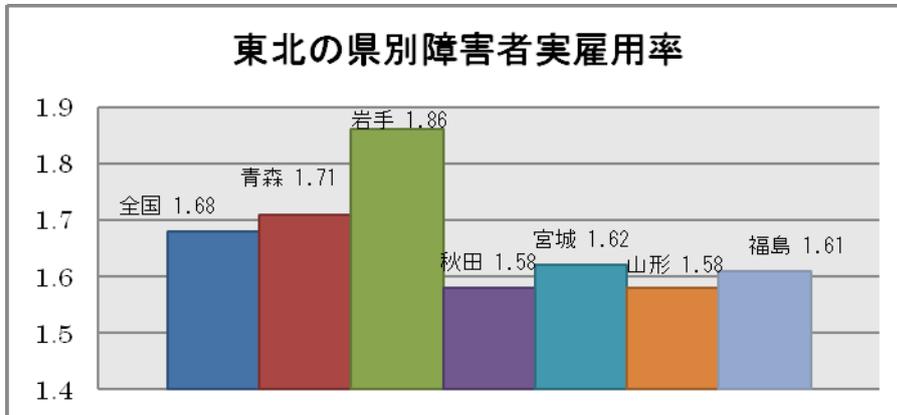


参加者は58名。参加者の感想としては、「もっと他の機会にも講座を開いてほしい。」「模擬面接を体験出来てよかった。」等が聞かれました。また同行した支援スタッフからは「施設から離れて、就労訓練をすることで、当事者・スタッフ共客観的に評価ができると思う。」「施設で練習した時とは全く違う表情、返答など色々見ることができ、本番へ向けての参考になった。」等スタッフにとっても新しい発見があったという嬉しいお話も聞くことができました。

今回のふれあいワークフェア対策講座では、支援者の率直な意見や質問を頂き、模擬面接では参加者のいつもと異なる一面をみることができました。今回の対策講座を今後の事業に活かしていきたいと思っております。もし皆さんで「こんなことなら協力出来ます」「何かお手伝い出来ないでしょうか？」などありましたら気兼ねなくお問い合わせください。

INFORMATION

厚生労働省より、平成22年の障害者雇用状況の集計結果が出されました！



(都道府県別の実雇用率の状況より抜

粋)

毎年6月1日現在の56人以上の企業の都道府県別雇用率や公的機関の障害者の雇用率が発表されています。これを「6・1報告」と呼んでいますが、宮城県は全国平均の1.68%より、低い1.62%。民間企業の障害者の法定雇用率1.8%を下回っている企業がまだまだ多い現状です。障害者雇用がもっと進むように、皆さんも私たちと一緒に考えていきましょう。

仙台市障害者就労支援センター相談受付日・時間

	月曜日～金曜日	土・日・祝
窓口での相談	8:30～17:00	休み
電話相談・移動相談	8:30～19:30	8:30～17:00

※年末年始(12/29～1/3)は休みとなります。

※土日は各区障害者福祉センターなどにおいて「移動相談窓口」を設けます。日程等は仙台市障害者就労支援センターへお問い合わせください。

■相談方法 : 来所・電話・FAX・Eメールにて受け付けております。 ※来所は原則として予約制です。

■費用 : 相談・支援サービスは無料です。

■対象となる方 : 仙台市にお住まいの15歳以上の障害のある方で就労(就労希望)している方が対象となります。

※実習等にかかる交通費、食事代等は実費負担があります。

※家族・事業主からの相談も可能です。

※障害者手帳の有無は問いません。

発行：仙台市障害者就労支援センター

発行日：平成22年 11月 発行

(指定管理者:財団法人仙台市障害者福祉協会)

〒981-3133 仙台市泉区泉中央2丁目1-1 泉区役所東庁舎5階

電話:022-772-5517

FAX:022-772-5519

E mail:info@sendai-wsc.jp

<http://www.sendai-wsc.jp>

編集後記

秋もだんだん深まってきて、昼と夜の気温の変化が著しい季節となりましたが、体調などは崩されていないでしょうか。

この機関誌を多くの方に読んでいただく為に、記事の内容はもちろん、わかりやすい紙面づくりを目指していきたいと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。

(機関誌編集委員一同)